

産経新聞

平成12年(2000年)6月17日 土曜日

総選挙

候補者のプロフィール & 公約

「今の日本は政治に大義が失われ、正論が通らなくなっている。政治改革でも元々は小選挙区導入ではなく、地域振興券や介護無料化などは、やっつけてはいけないこと。何が正論か、何を次の世代に残すのかを真剣に考えなければ」。

衆院大蔵委員長、党副幹事長などの要職を歴任した四期目。「日本にとっても、私の人生にとっても大変な三年半だった」と振り返る。特に印象に残るのは大蔵委員長。就任直後には大手証券会社や銀行の破たんが相次ぎ、任期中にトータルで六十本の関連法案を処理したという。息つく暇もないほど仕事に熱中した。前回選挙と同じく、経済、財政、危機管理、少子高齢化、教育の再構築の五課題を挙げた。「自分なりに一生懸命やってきましたつもりだが、日本全体でここまで状況が悪化する



強い信念と自信

村上誠一郎さん(48)自前

愛媛新聞

2000年(平成12年)6月15日 木曜日

村上誠一郎さん 48

自民前



衆院大蔵委員長、党副幹事長などの要職を歴任した四期目。「日本にとっても、私の人生にとっても大変な三年半だった」と振り返る。特に印象に残るのは大蔵委員長。就任直後には大手証券会社や銀行の破たんが相次ぎ、任期中にトータルで六十本の関連法案を処理したという。息つく暇もないほど仕事に熱中した。前回選挙と同じく、経済、財政、危機管理、少子高齢化、教育の再構築の五課題を挙げた。「自分なりに一生懸命やってきましたつもりだが、日本全体でここまで状況が悪化する

好きな言葉「一球入魂」

とは思わなかった。危機的状況を国民全体で考え、解決していかなければならぬ。地盤の今治市、越智郡は昨年五月、瀬戸内しまなみ海道が開通。「多島美と長大橋などを観光資源の素晴らしさを地元の人たちが認識することが大切」と力説する。自転車歩行者道を活用し、若い世代がリピーターとして来てくれるような受け皿づくりの重要性を指摘。島内道路や今治小松自動車

道などインフラ整備の早期完成も訴える。一九八六年七月の初当選から十四年。「今の政治は大義が失われ、正論が通らない」と嘆きながらも、日本の将来を憂い、自分の正論を訴え続ける。趣味のゴルフや読書、将棋は息抜き程度にしかできなかった。一日百本吸っていたタバコを昨年十二月にやめたため体重は十キロオーバーに。好きな言葉は「一球入魂」。「一つひとつの問題に全力投球していきたい」と力を込めた。